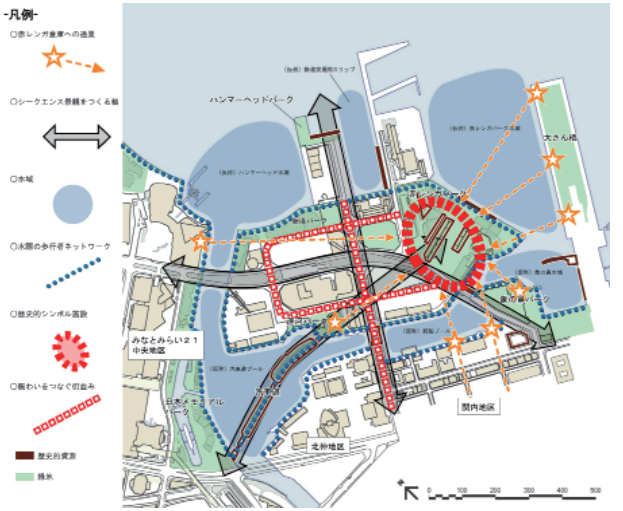
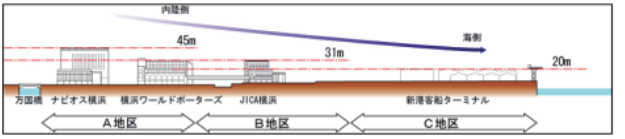
■みなとみらい 21 新港地区景観計画　　［横浜市］　2007-09

2004 年の景観法、2006 年の横浜市景観ﾋﾞｼﾞｮﾝと横浜市魅力ある都市景観の創造に関する条例制定を受け、これまでの新港地区の街並みづくりやその成果を引き継ぎつつ、新たな都市景観形成ガイドラインとして改定するための検討を行ったものである。

既存の空間形成の基本方針に加えて、景観形成の骨格として、赤レンガ倉庫への通景や、歴史やみなとらしさを演出するシークエンス景観、周辺地区からの見下ろし景観などの新たな要素を加え、景観形成基準及び行為指針をまとめている。その検討内容は平成 22 年 1 月に策定された「みなとみらい 21 新港地区街並み景観ガイドライン」として冊子にまとめられ、市 HP にも公開されている。



街並み形成概念図

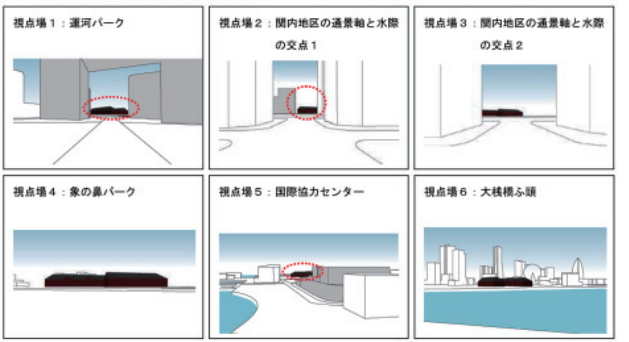


万国橋軸断面構成イメージ図

景観形成基準 1

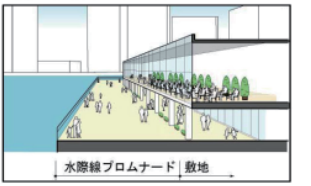
各視点場から赤レンガ倉庫への通景の軸線上の街区で建築を計画する場合は、通景が確保できるように各街区内で適切な空間確保を行います。

・9、11、13 街区が対象となります。

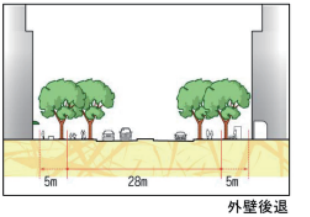


みなとみらい 21 新港地区街並み景観ガイドライン
横浜市ＨＰ掲載

水際線プロムナードと一体的な外部空間



プロムナードに面して建物を開放



外壁後退

外壁後退部への高木の植栽（片側２列植栽）

経緯　MM21 新港地区景観計画等検討 ‘07.11 ～ 08.3 横浜市／ MM21 新港地区景観計画等継続検討 ‘08.6 ～ 09.3 横浜市　　担当：中野、池田、笠間、佐々木